

指定障害者支援施設

さやま園 ▼▲● だより

GOOD DAY SUNSHINE PROJECT!



No.211

2020.Aug.



「生活が一変」

荒井園長 編

令和2年は、新型コロナウイルスにより、これまでの「生活が一変」しました。

さやま園では、高齢や持病をお持ちの方が多く利用していることから、施設内でクラスター感染かんせんが起じゅうとくかきれば重篤化してしまうことが予測されます。また、利用者の障害特性等から重篤者以外の方の入院での治療は難しいと思われま。その為さやま園では、新型コロナウイルスを施設内に持ち込まないことを第一として、1日2回の検温や手洗い、うがい、手指消毒等を徹底し、職員一人ひとりの意識を高めてきました。また、万が一に備えて外部講師及び看護師によるガウンテクニック研修、ゾーニングなどの検討、さらには、当法人の障害グループ(各施設)の職員が実際にさやま園に応援に来ていただき、もしもに備えた応援体制の構築も行いました。職員一人ひとりの不安も和らぎ、心強い応援でした。この場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。

緊急事態宣言中の自宅待機、テレワークが進められる中、福祉施設の職員は大半が休むことなく利用者支援に当たられたと思います。当園においても一日たりとも支援を怠ることが出来ない入所施設です。そんな中、手前味噌ですが、新型コロナウイルス感染が怖いので休ませてくださいという職員は一人もいませんでした。また、保育園・小学校などが休園・休校となる中、家でお子さんを見なければならぬ職員も、最小限度のお休みで支援に当たってくれました。利用者の暮らし・命を守るために現在も毎日使命感つなをもって支援を繋いでくれている全職

員に心から尊敬と感謝の気持ちがつきません。

利用者の皆さんには外食の中止や帰宅の中止など、生活面・精神面での我慢がまんを強しいることとなってしまいました。またご家族の皆様にも帰宅や面会めんかいの中止をお願いすることとなりましたが、ご理解とご協力を頂けたことに深く感謝しております。

緊急事態宣言解除後は感染症対策を継続しながら講師・ボランティアの受け入れ、ご家族との面会など、段階を追って緩和策を進めてきました。しかし、7月に入り、都内の新型コロナウイルス感染症の新規感染者数は最多を更新するほか、施設での感染報告も続き、見えないウイルスが足元まで近づいてきました。

国の「Gotoトラベルキャンペーン」も始まりました。このカルミアを読んで頂けている頃には、どのような状態になっているのでしょうか!?

ともあれ、市中感染・家庭内感染・福祉施設での感染等、連鎖感染れんさかんせんが増えていることは容易に想像ができます。いつでも・どこでも感染してしまうリスクが高まっている状況において、このまま施設内へのウイルスの持ち込みを防ぎきれぬのか?不安と緊張が増しています。

生活の場として安心した暮らしが提供できるように、しかし窮屈きゅうくつにもならないように葛藤かつどうを続け、関係者皆様のご協力も頂きながらコロナ対策を継続してまいります。

『旅行に行きたい!温泉行きたい!おいしいもの食べたい!!マスク外したい!!!』

さやま園 新生活支援員のご紹介

今年度さやま園に着任した新しい生活支援員を
仕事やちょっとしたプライベートな質問を
投げかけながら、ご紹介します。

Q & A

1. この仕事を選んだ理由は？
2. さやま園に入ってこの4ヶ月の感想
3. 趣味は何ですか？
4. 休日はどのように過ごしていますか？



すどう えり
須藤絵里さん 生活支援員・つくし

1. 学生の頃から福祉に携わることが多かったからです。
2. 覚えることや自分のことで必死であつという間の4か月でした。
3. ライブに行くことです！
4. お酒を呑んだり、家事をして過ごしています

一言コメント：
4月から新しく入りました。笑顔で頑張ります！



ながの みさき
永野海咲さん 生活支援員・つくし

1. まずはじめに精神保健福祉士という職種を知り、福祉系の学部で日々学んでいく中で生活支援員という職種に惹かれ、この仕事を選びました。
2. 日々新しいことを学び、できる事が少しずつ増えていくことで自信にもつながってきました。あつという間の4か月でした。
3. 映画・音楽鑑賞・体を動かすことも好きです！
4. 映画鑑賞・寝る・美味しい物を食べる・友達と出かける

一言コメント：
少しずつですが出来ることを増やしていきたいと思います。ご迷惑をおかけするかと思いますがよろしくお願いします。



すぎた ゆきえ
杉田雪絵さん 生活支援員・つくし

1. 学生時代に実習をした際、興味を持ったからです
2. あつという間です。はじめはわからないことばかりで戸惑うことも多かったのですが、少しずつ慣れてきました。
3. ライブへ行くこと（バンドが好きです）
4. ゲームをする・録画していたテレビ番組を見る

一言コメント：
皆さんと良好な関係を築けたら嬉しいです。精一杯努めてまいります！よろしくお願いいたします。

やました ただし
山下正さん 生活支援員・わかば

1. 家族に障害者になった者がいるからです。
2. 無我夢中で時間が経つのがとても早かったです。
3. 風景、鉄道などの写真撮影・プラモデル・歴史探案。
4. 最近は家でジツとしています。

一言コメント：
毎日がドキドキと新しい体験の繰り返しで充実しています。未熟者ですが、どうぞ宜しくお願い致します。



もり なつみ
森菜摘さん 生活支援員・かえで

1. 多くの人と接する仕事、役に立つ仕事に就きたいと思い福祉の道に進みました。
2. さやま園の利用者の皆さん・職員の方々はとても明るく、活気にあふれているので毎日楽しく過ごせています。
3. 映画鑑賞。特にミュージカルやSF映画が好きです。
4. 最近1人暮らしを始め、自炊でいろいろな料理に挑戦中です。

一言コメント：
一人一人に寄り添った支援を目指して頑張っていきます。



こんの えみり
紺野英美里さん 生活支援員・あんず

1. 直接的に人を支援する仕事をしたいと思ったからです。
2. 時間が過ぎるのが早く、短く感じられました。
3. おいしい食べ物を食べる。ライブに行くこと。
4. 散歩をして新しい食べ物屋を見つけること。

一言コメント：
利用者さんが楽しく生活できるように支援していきたいです。



たお ゆうすけ
田尾勇祐さん 生活支援員・わかば

1. 誰かの役に立ちたい。その思いから入職しました。
2. 最初はコミュニケーションのとり方がわからず、どう接したらいいのかかわからないことばかりでしたが、今は利用者さんの声に耳を傾けつつ、自然な形で関わられるようになってきました。
3. 食べ歩き・ゲーム
4. 家の掃除・録画TV、映画鑑賞・ドライブ

一言コメント：
皆さんと楽しく笑顔でいられるように頑張ります。

さやま園の取り組み コロナ対応編

日本で新型コロナウイルスの感染が拡大してから半年以上が経ちました。
さやま園ではまだ感染者は出ていませんが、今後も職員一人ひとりの意識と利用者・ご
家族との協力が必要です。ここでは、当園のコロナウイルス対策の一部をご紹介します。

感染予防

手指衛生

出勤時の手洗い・アルコール消毒を徹底しています。
アルコールスプレーを職員1人1人が持参して、
常に消毒できる体制をとっています。

室内環境

1日3回の換気・1日2回の館内のアルコール消毒
を実施しています。アルコールが不足していた時期
は次亜塩素酸水を代用しました。

来園者への対応

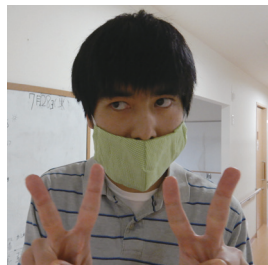
検温・手洗いうがい・消毒・換気の徹底
事前の予約などをお願いしています。

体調管理

利用者・職員ともに1日2回検温を実施。

感染症対策の新たなテクニックの習得

昭島病院協力の下、ガウンテクニックの講習。感染者
が出た場合に備えてガウンの着脱方法等を全員が実践
的に学びました。



マスクが苦手な利用者に向けての取り組み

利用者の中にはマスクを付けることが難しい方が多くい
ます。そのような方でも、元職員・同法人の保育園から
頂いた手作りマスクの中から好きな色柄のマスクを選
ぶことで、付けることができた方もいらっしゃいます。オ
シャレなマスクだと気分も上がりますね。

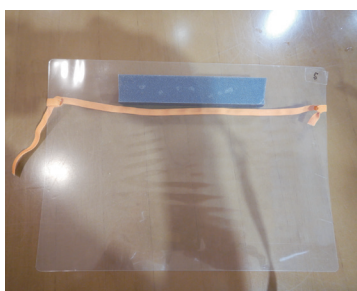
働き方

定時退勤

職員が体調を整えて仕事に臨めるよう定時退
勤を心掛け、実践できるよう職員同士で協力
しています。また、職員の自宅待機時間を設
けました。

同法人の他施設からの応援

実際に園内で感染者が出た場合等を想定し、
同法人の障がいグループ施設の職員に応援に
来ていただきました。法人内での協力体制強
化にも繋がりました。
ご協力ありがとうございました！



Thanks!

元職員や法人内外の施設・保育園から
お手製マスクやフェイスシールドを頂きました。
ありがとうございました。

暮らしの工夫

さやま園は暮らしの場。

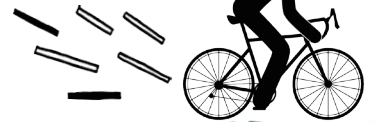
感染予防のため制約が多い中、少しでも楽しく
快適かいてきに過ごすため、いろいろな試みをしています。

SAYAMAEats(デリバリー)

新型コロナウイルスの感染が拡大し、利用者の皆さんが楽しみにしている外食やおでかけもままならなくなりました。それでもたまには外食気分を味わいたい…。世の中では食事のテイクアウトやデリバリーの需要じゅうようが高まっています。そんな時! UOerEats ならぬ SAYAMAEats が誕生!! 皆さんの食べたいものを届けてくれました!



皆さん肉食系なのかハンバーグやとんかつ、ハンバーガー、チキンなどを選ぶ方が多いです。しっかり食べてコロナに負けない体を作りましょう! 皆さん御用達ごようたしの SAYAMAEats、次は何を注文しようかな～。



お便り大作戦!

帰宅や面会のできなかつた期間、ご家族が安心できるように、利用者の方が園で元気に過ごしている様子を写真に撮り、ご家族に送付しました。ご家族からも安心しましたとの声が届いています。

行事は小さく内々で

例年は地域の方にも開放している夏祭りですが、今年度は園内での行事として7月21日に実施しました。規模は小さくなりましたが、皆さん浴衣ゆかたや甚平じんべいを着て参加し、夏のお祭り気分を味わいました。

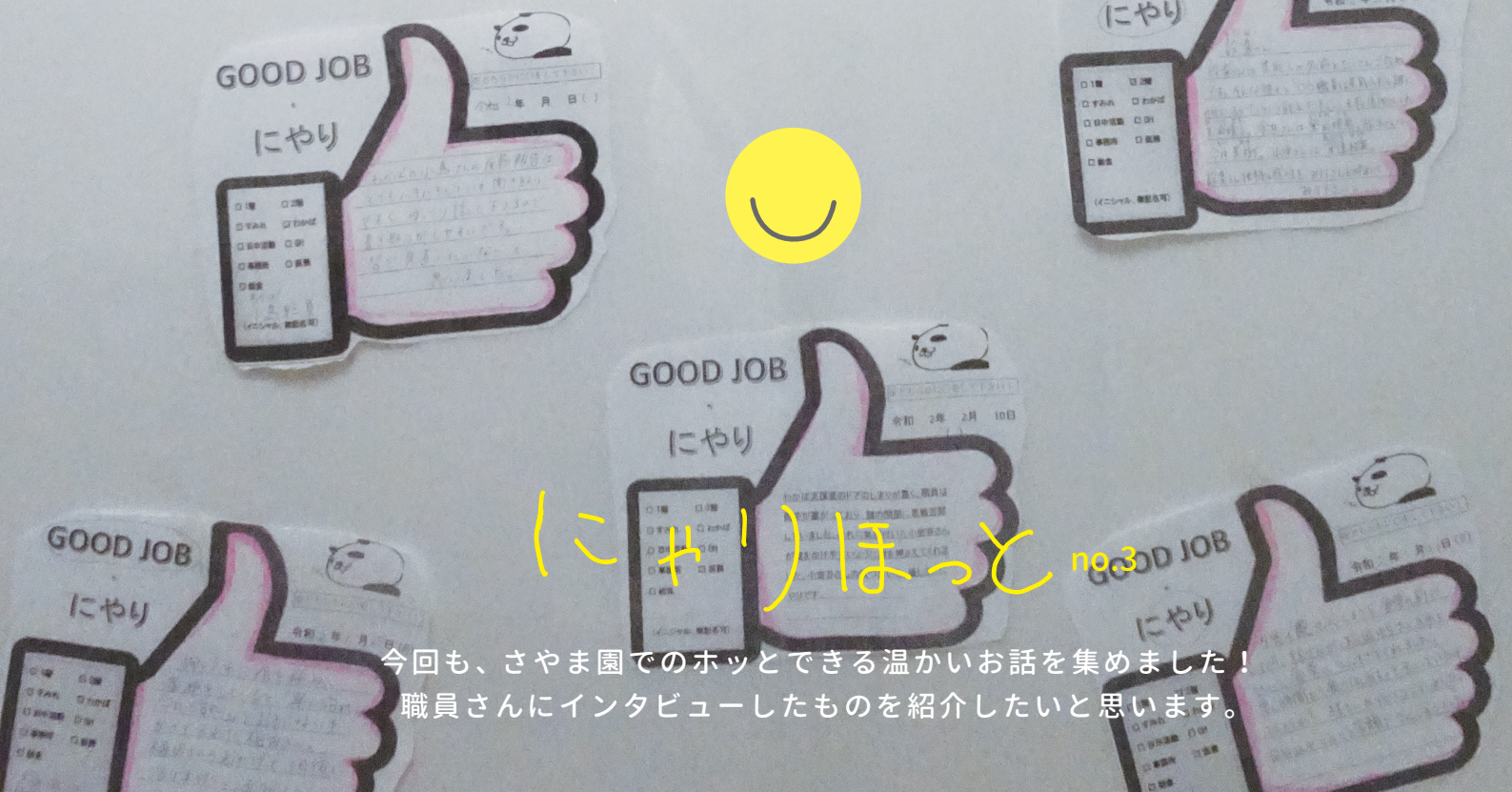
親しき仲にもソーシャルディスタンス!

ご家族の面会時には上記に加えてフェイスシールドの着用・事前の来園予約・飲食の禁止・面会時にも距離を保つこと等を徹底して頂いています。

新たなる日中活動

日中活動ではペンなどの道具は共用にせず、個人ごとの使用としています。当たり前の生活をするために安全対策をしながらエアロビ・陶芸・健康体操・音楽活動を6月から開始しました。活動後に使用した道具を消毒しています。

国からは「新しい生活様式」が示され、わたしたちの日常は大きく変わってしまいました。しかし、さやま園の日常は変わらず、園内には明るい声ひびが響き渡り、賑やかな毎日です。これからも利用者の皆さんが毎日を元気に安心して過ごせるよう職員一同努めていきます。コロナウイルスとはまだまだ長い付き合いになりそうですが皆で協力し合って乗り越えていきたいですね。



今回も、さやま園でのホットとできる温かいお話を集めました！
職員さんにインタビューしたものを紹介したいと思います。

STORY 1

M・Yさんの勇敢な姿が見られたとのことでお話を聞きました。ある職員さんが歯磨き介助をしているときの出来事です。その職員さんは、利用者^{あわ}に
いじられて困っていたそう。どうしたらよいか慌て
いると・・・隣で歯磨きをしていたM・Yさんが「な
にやってるんだ!やめろ!」と言い、その利用者さん
から守ってくれたのです!そして、その日はずっとそ
の職員さんが困った時はM・Yさんが駆け付け助け
てくれたのです。

マイペース屋なM・Yさんですが、思いやり^{あふ}に溢れ
た優しさ、そして普段とは別人と思えるほどの行動
力に驚きとても感謝したとのことです。



いかがでしたか?さやま園では、良いことが皆に共有できるように、にやりホットを掲示しています。
自分のことを書かれると、嬉しいですね。皆さんも良い話を共有していきましょう!

STORY 2

T・Yさんは、現在 50 代前半で笑顔が素敵でいつ
も皆を元気にしてくれるアイドル的な存在。そして、
いたずらも大好きでよく職員をいじって楽しむ光景^{にちしようさはんじ}
が日常茶飯事!

そんなT・Yさんから、遊ばれた職員さんからお話
を聞きました。ある日の食事中T・Yさんは顔を背
けて介助拒否、でも顔はニヤニヤ(笑)

困った職員さん。T・Yさんはイケメン好きであり、
アイドル等の写真を見せると食べることがあるよう
です。そこで、イケメンが写った写真を目の前で
見せた所・・・T・Yさんは、目が♡になり乙女の
表情をしたのでした。そして、イケメンと一緒に食
事・・・イケメンと食べる食事は格別なのか、ご
飯が進んだようです(笑)

その時、職員さんは、いつまでもキメキメで大切
なんだなあ〜と感じたとのこと!その後も、そのイケ
メンの写真を乙女の表情で見っていたそうです。

Ceramic art 陶芸活動

陶芸活動は、週に2日、約20名の利用者の方とおこなっています。外部講師の先生もお越しいただき基本的な工程から様々な工夫を施した手法によって5年間たくさんの作品をつくってきました。

陶芸セラピーといわれるほど粘土への触感や細かな作業から脳への働きがあったり、ほかのアートとは違った立体になる楽しさがあります。粘土にさわるとストレスを発散したりできます。

利用者の方々からは「あれが作りたい、これが作りたい」と沢山のアイデアがでて、自分の好きな作品を制作したり、職員たちからリクエストを出してつくることもあります。成形の時は、皆さん真剣な表情で静かに取り組み『無心の世界』です。また、少人数なのでゆったりしたペースで作業を進める事ができています。外部講師やボランティアの方との会話も活動の楽しみの一つとなっています。

ノート

『わたしたちのアイデア NOTE』

講師・職員と利用者とのツール

作品をつくる上で大切にしていることは

「何を作りたいか、表現したいか、誰のために・・・」などなどいろいろあると思いますが、利用者の方のなかには言葉で伝えるのが難しい、見たことないものは頭に浮かばない立体になるという概念がないなどちょっとハードルがあったりします。

そこでアイデア NOTE を取り入れてみました。

好きなことや、モノ、色、文字、なんでもいいので書いてみる。様々なことが書き記されていくと、講師や職員との会話の糸口になり、制作していくうえでもその方に合った手法を考えていくことができます。

会話だけでは読み取れないけど、NOTE にしてみたら・・・？
そんなひよんなことから生まれました。

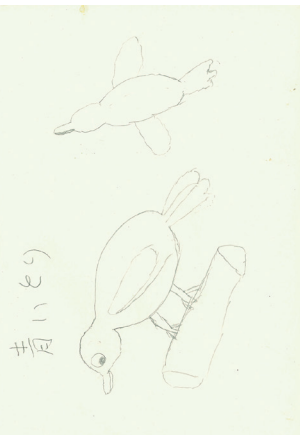


ノートに描かれたアイデアが形になった作品をご紹介します。

田丸さんの NOTE

鳥のオブジェ

「世界平和」が彼女の口癖。
鳥はその象徴？彼女の絵
や刺しゅうにもよく鳥が
できます。
「みなさんがしあわせでありますように・・・」と願
いを込めて、親子の鳥の
オブジェを制作。



田丸さんのイメージスケッチ



完成した鳥のオブジェと田丸さん



GALLERY



さやま園ギャラリーの第5弾、満を持して登場したのは、鬼頭さん・出山さんのお二人。鬼頭さんの描いたアート感あふれる作品を、出山さんがタッピングという手法でチェアマットに再現する、まさにアーツアンドクラフツを具現化した作品の展示となりました。

実はこれらは2019年度に開催された「アール・ブリュット立川」に出展された作品たちです。アール・ブリュットとは、加工されていない「生の芸術」という意味だそう。

職員である私も実際にお二人と一緒に展示を見学に行きました。見学されていたお客さんからも「色鮮やかな素敵な作品ですね」とお言葉をいただきました。実際に言葉をいただいたお二人の笑顔も作品に負けずおとらず鮮やかでした。

今後もしみ出されていくであろう色鮮やかな作品を心待ちにしています。

さやま園のギャラリーは2ヶ月ごとに利用者を変えて作品を展示しています。

編集後記

皆様いかがお過ごしでしょうか。前回カルミアを発行した際には新型コロナウイルスがここまで蔓延し、日常がこのように様変わりするとは考えてもいませんでした。

今回発行したカルミア211号を見ていただくと分かるように、さやま園でも外出の制限や行事の縮小などさまざまな変化がありました。そんな状況下でカルミアの記事として選ばれたのは「新入職員紹介」。

今回記事になっている支援員の7名以外にも昨年から多くの支援員・調理員・事務員・清掃員が入职し、さやま園を支えています。かくいう私も昨年4月に入职した支援員の1人。1年前は何を考へながら仕事に臨んでいただろうかと思いましたが、ただただ毎日必死に目の前の仕事をこなすだけだったと思います。

今年度は新人の頃のようなフレッシュさを持ちながらも、さやま園を支える1人として頑張っていくぞと強く思いながら、コツコツと過ごしていきたいと思ひます。

野島

カルミア内にひそむ「ミカメ」を探す、企画！
今号には3人の「ミカメ」が潜んでいます。
さあどこにいるのでしょうか？

ミカメを探せ！



発行元：指定障害者支援施設 さやま園
発行責任者：荒井隆夫
住所：〒189-0024 東京都東村山市富士見町2-7-13
TEL：042-391-3275 ・ FAX：042-391-3276

さやま園のホームページ
<http://www.sayamaen.com>
ブログ
<http://temae2016.jugem.jp/>

